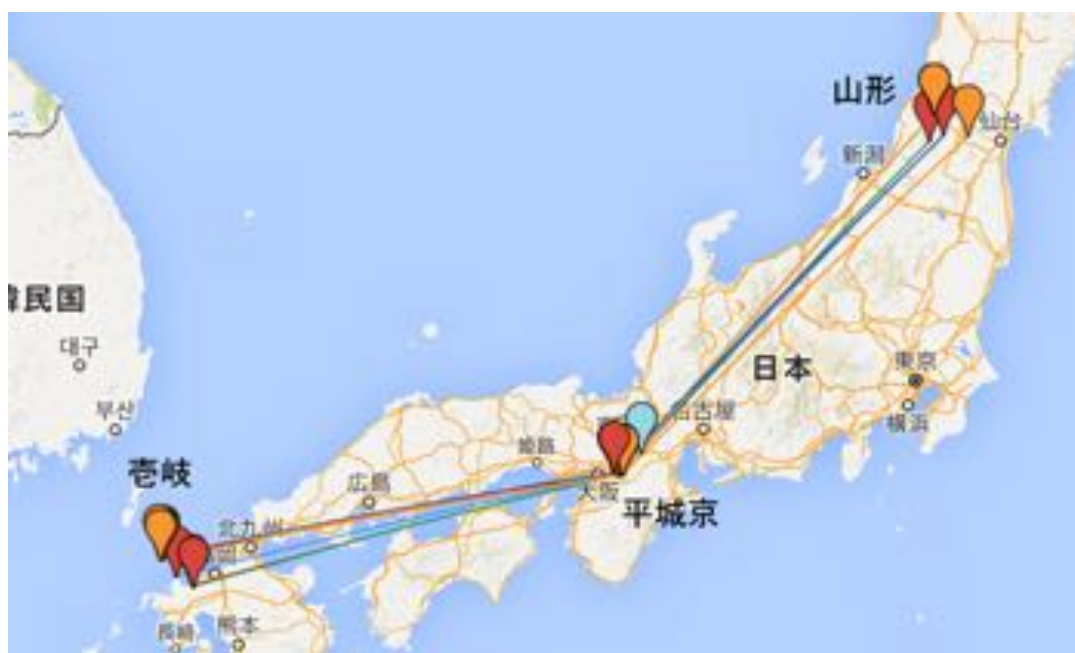


平城京大極殿と周辺



しくみ

- 浮嶽 542.37km - 第一次大極殿 - 大朝日岳 542.37km
- 弥佐支刀神社 568.905km - 第一次大極殿 - 湯殿山神社 568.905km
- 兵主神社 566.295km - 第二次大極殿 - 蔵王御釜 566.295km
- 塩釜神社 561.63km - 唐招提寺 - 大沼浮嶋稲荷神社 561.63km
- 田島神社 559.25km - 宇奈多理座高御魂神社 - 大沼愛宕神社 559.25km
- 龍泉寺 542.24km - 宇奈多理座高御魂神社 - 大朝日岳 542.24km
- 天手長姫神社跡 563.50km - 王竜禅寺 - 大沼浮島 563.50km
- 天道神社 571.67km - 薬師寺 - 湯殿山神社 571.67km
- 八坂神社 576.17km - 東大寺 - 立石寺奥の院 576.17km

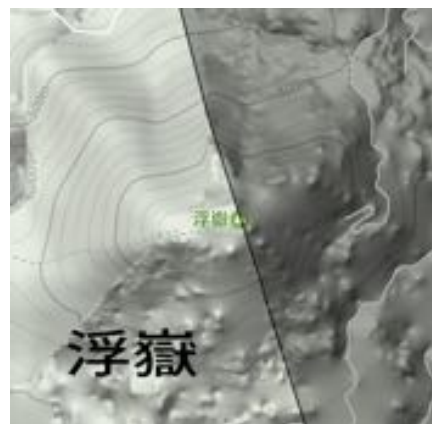
しくみ詳細

左極

- 浮嶽 542.37km - 第一次大極殿 - 大朝日岳 542.37km

浮嶽

祭神/浮嶽大神（浮嶽大権現）。山頂に浮嶽神社の上宮が鎮座する。神功皇后がこの山頂で戦勝祈願し、帰朝後、神社を建立したと伝説にある。後に、聖武天皇の時代に渡来した清賀上人が「浮嶽久安寺」を開き、神仏混淆の神社となるも、山体自体が信仰の対象であったという。福岡県と佐賀県



中道角

平城京第一次大極殿跡

第一次大極殿は、710年の平城京への遷都当初から740年に恭仁京へ遷都されるまでの間、大極殿院が置かれていたところでした。

710年（和銅3年）3月10日（旧暦）に遷都された時には、内裏と大極殿、その他の官舎が整備された程度と考えられており、寺院や邸宅は、山城国の長岡京に遷都するまでの間に、段階的に造営されていったと考えられている。740年（天平12年）、恭仁京や難波京への遷都によって平城京は一時的に放棄されるが、745年（天平17年）には、再び平城京に遷都され、その後784年（延暦3年）、長岡京に遷都されるまで政治の中心地であった。山城国に遷都したのは南都（なんと）とも呼ばれた。810年（弘仁元年）9月6日、平城上皇によって平安京を廃し平城京へ再び遷都する詔が出された。これに対し嵯峨天皇が迅速に兵を動かし、9月12日、平城上皇は剃髪した（薬子の変）。これによって平城京への再遷都は実現することはなかった。奈良市佐紀町



右極

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

（備考）

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。



■ 弥佐支刀神社 568.905km - 第一次大極殿 - 湯殿山神社 568.905km

弥佐支刀神社

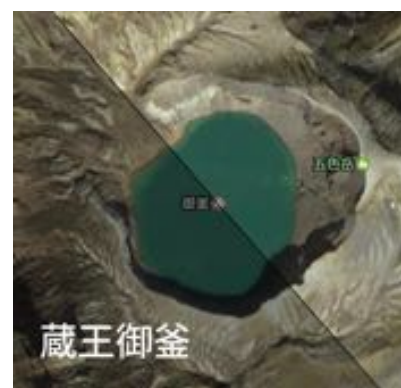
祭神/日本武尊 弘仁2年(811)10月鎮座
長崎県壱岐市郷ノ浦町大原触

湯殿山神社

開山は約1,400年前、第32代崇峻天皇の皇子である蜂子皇子が三本足の霊鳥に導かれ、羽黒山に登拝し、羽黒権現を感得、山頂に祠を創建したのが始まりとされている。皇子はさらに月山権現と、湯殿山権現を感得し、三山の開祖となった。鶴岡市田麦俣六十里山7



■ 兵主神社 566.295km - 第二次大極殿 - 蔵王御釜 566.295km



兵主神社

素盞鳴尊、大己貴命、事代主神。兵主神は、中国の「史記」という本に出てくる、蚩尤(しゅう)という、武将が、神様になったものと考えられています。蚩尤は、鉄を食べ、顔は人間、体は獣の姿をしていて、額には、角があり、角力では、かなうものがいなかったといひます。長崎県壱岐市芦辺町深江本村触

平城京第二次大極殿跡

奈良時代後半に都が難波京から再び平城京へ遷都されたときに造られた大極殿。奈良県奈良市佐紀町

蔵王御釜 蔵王権現 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉倉石岳国有林内

■ 塩釜神社 561.63km - 唐招提寺 - 大沼浮嶋稻荷神社 561.63km



塩釜神社

地元の七社の一つ。創立年不詳。祭神の鹽土老翁は日本神話に登場する神であり塩竈明神とも言います。「シオツチ」は「潮つ霊」「潮つ路」であり、潮流を司る神、航海の神です。また、シオツチノオジは製塩の神としても信仰されています。その他、呪術・予言の神などとしても信仰されています。

老崎市芦辺町箱崎諸津触

唐招提寺

唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山。天宝元年（742）、第9次遣唐使船で唐を訪れていた留学僧・栄叡（ようえい）、普照（ふしょう）から、朝廷の「伝戒の師」としての招請を受け、渡日を決意。その後の12年間に5回の渡航を試みて失敗、次第に視力を失うこととなったが、天平勝宝5年（753）、6回目にして遂に日本の地を踏まれた。以後、76歳までの10年間のうち5年を東大寺で、残りの5年を新田部（にたべ）親王の旧宅地（現在の奈良市五条町）を下賜されて、天平宝字3年（759）に戒律を学ぶ人たちのための修行の道場を開き、天皇を始めとする多くの人々に授戒をされた。「唐律招提」と名付けられ鑑真和上の私寺として始まった当初は、講堂や新田部親王の旧宅を改造した経蔵、宝蔵などがあるだけでした。金堂は8世紀後半、鑑真和上の弟子の一人であった如宝の尽力により、完成したといわれます。奈良県奈良市五条町13-4 ※第二次大極殿の時代

大沼浮嶋稻荷神社

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮嶋稻荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。天平2年（730）大沼大行院（4代）ぎ道脇書に「草堂だった大沼社を神池の坤丘に移す」とある。

山形県西村山郡朝日町大沼



■田島神社 559.25km - 宇奈多理座高御魂神社 - 大沼愛宕神社 559.25km

田島神社

肥前国最古の神社といわれる。田心姫命・市杵島姫命・湍津姫命を祀る。

『松浦古事記』では、天平3年（731年）に相殿に稚武王を配祀し、天平10年（738年）に聖武天皇より大伴古麻呂に詔命があり「田島大名神」の神号が贈られたとする。『新抄格勅符抄』大同元年（806年）牒によると、当時の「田島神（田嶋神）」には神戸として16戸が肥前国から充てられていた。

国史では、天安3年（859年）に「田島神（田嶋神）」の神階が従四位下に昇叙された旨が見える。その後も貞観2年（860年）に従四位上、貞観15年（873年）に正四位下、貞観18年（876年）に正四位下、元慶8年（884年）に正四位上への昇叙のことがあった。延長5年（927年）成立の『延喜式』神名帳では肥前国松浦郡に「田島坐神社（田嶋坐神社） 名神大」と記載され、名神大社に列している。江戸時代には唐津藩の祈願所となった。加部島は、かつては「姫島」・「姫神島」と呼ばれていた。境内社として、佐用姫伝説の松浦佐用姫を祀る佐與姫神社（佐用姫神社）が鎮座し、佐用姫が変じたとされる石（望夫石）が祀られている。佐賀県唐津市呼子町加部島



宇奈多理座高御魂神社

式内社 創祀年代は不詳 祭神三座 高御魂尊（中座）、天太玉命（東座）、思兼命（西座）。境内社は、みな天孫降臨に随従された神々を祀る。天細女命社、猿田彦命社、手力男命社、大宮媛命社、豊岩窓命社 奈良市法華寺町

大沼愛宕神社

大沼浮島稲荷神社の西側の丘にある。山形県朝日町

■龍泉寺 542.24km - 宇奈多理座高御魂神社 - 大朝日岳542.24km

龍泉寺 不明 佐賀県唐津市七山滝川 1 1 9 1

宇奈多理座高御魂神社 ※上記参照

大朝日岳 ※上記参照



■天手長姫神社跡 563.50km - 王竜寺 - 大沼浮島 563.50km

天手長姫神社

式内社 主祭神/拷幡千千姫尊 種日女命 木花咲邪姫尊 豊玉姫尊 玉依姫尊 向かい合わせの天手長男神社と対の神社だった。

壱岐市郷ノ浦町柳田大字物部田中触

<http://sigin.sakura.ne.jp/junpaikai/HTML/IkiIchinomiyaStory.htm>

王竜寺

聖武天皇（724年 - 749年）の勅願による古刹。天平年間には災害や疫病（天然痘）が多発したため、聖武天皇は仏教に深く帰依し、天平13年（741年）



には国分寺建立の詔を、天平15年（743年）には東大寺盧舎那仏像の建立の詔を出している。これに加えてたびたび遷都を行って災いから脱却しようとしたものの、官民の反発が強く、最終的には平城京に復帰した。奈良市二名6丁目1492

大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも、本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。



■天道神社 571.67km - 薬師寺 - 湯殿山神社 571.67km

天道神社

祭神/素盞鳴尊 配祀/五十猛命、大屋姫命、抓津姫命

『続風土記』云う、当社は神代よりの鎮座。「古考伝」云う、天道大明神、韓国より駒牧邑大江の浜に到り給う。此の地に井泉あり。滑川と云う。其の川の傍らにて竜馬に乗り、滑木（ナメキ）の辻に到り給う。宮室を造りとどまる。大江浜の石に竜蹄の跡、今なお存す。土俗敬いて登らず。長崎県壱岐市郷ノ浦町小牧西触

薬師寺

薬師寺は「法相宗〔ほっそうしゅう〕」の大本山です。



天武天皇により発願（680）、持統天皇によって本尊開眼（697）、更に文武天皇の御代に至り、飛鳥の地において堂宇の完成を見ました。その後、平城遷都（710）に伴い現在地に移されたものです。（718）
奈良県奈良市西ノ京町457

湯殿山神社 ※上記参照。

■ 八坂神社 576.17km - 東大寺 - 立石寺奥の院 576.17km



八坂神社

祇園大明神と巖島大明神、外4柱を祀る 長崎県壱岐市郷ノ浦町郷ノ浦313

東大寺

金光明四天王護国之寺（きんこうみょうしてんのうごこくのてら）ともいい、奈良時代（8世紀）に聖武天皇が国力を尽くして建立した寺である。「奈良の大仏」として知られる盧舎那仏（るしゃなぶつ）を本尊とし、開山（初代別当）は良弁。奈良市雑司町406-1

立石寺奥の院

寺伝では貞観2年（860年）に清和天皇の勅命で円仁（慈覚大師）が開山したとされている。当寺の創建が平安時代初期（9世紀）にさかのぼることと、円仁との関係が深い寺院であることは確かであるが、創建の正確な時期や事情については諸説あり、草創の時期は貞観2年よりもさらにさかのぼるものと推定される。山形市山寺

備考

平城宮後期に初めて大沼浮嶋稻荷神社と繋がった。（唐招提寺）やはり、天平2年（730）大沼大行院（4代）ぎ道脇書に「草堂だった大沼社を神池の坤丘に移す」とあるのは、この時だったのでは。主祭神は弁財天から稻荷神に変えられたのだと思う。

山形県の主だった信仰地とも結びついてきた。ただ、恭仁京や紫香楽宮は山形とのつながりが見つからなかった。

（参考）

奈良時代天皇一覧

元明天皇……第43代天皇。

元正天皇……第44代天皇。

聖武天皇……第45代天皇。

孝謙天皇……第46代天皇。

淳仁天皇……第47代天皇。

称徳天皇……第48代天皇。

光仁天皇……第49代天皇。

桓武天皇……第50代天皇。

都の変遷 645年以降

①難波長柄豊碕宮	孝徳天皇	645～655年
②飛鳥板蓋宮	齊明天皇	655年
③飛鳥川原宮	齊明天皇	655～656年
④後飛鳥岡本宮	齊明天皇	656～667年
⑤近江大津宮	天智天皇	667～672年
⑥飛鳥浄御原宮	天武天皇	672～694年
⑦藤原京	持統天皇	694～710年
⑧平城京	元明天皇	710～784年（740～745年の間、一時放棄）
⑨恭仁京	聖武天皇	740～744年
⑩難波宮	聖武天皇	744年
⑪紫香楽宮	聖武天皇	744～745年
⑫平城京	聖武天皇	745～784年
⑬長岡京	桓武天皇	784～794年
⑭平安京	桓武天皇	794年 遷都

